

古代山陰道について 一島根県出雲市の近年の発掘調査をふまえて一

1. はじめに

古代直線官道についての発表は3回目になります。

2018年に天智・天武朝ごろに律令国家が全国に建設した古代直線官道の概要と走水から東京湾を渡海し房総半島に至る初期「古代東海道」が藤沢市内に残した道路痕跡について、また2022年には御殿場付近で古代東海道本道から分れて甲府に至る「古代東海道甲斐路」上で近年発見された河口湖畔鯉ノ水遺跡について発表しました。今回は場所を西に移して「古代山陰道」について発表いたします。

島根の山中の今ではあまり人が立ち入らない場所に、1300年前の巨大な古代道が眠っていたなんて、皆さんわくわく、ドキドキしませんか。

近年の発掘調査をふまえ、飛鳥、奈良時代の日本が形づくられた頃に、当時の律令国家が力強く全国に建設した古代直線官道の痕跡を山陰に訪ねます。

今回発表にあたっては、杉沢遺跡を案内していただいた出雲市文化財課石原聡様に大変お世話になりました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

2. おさらい 古代直線官道とは

長い間、奈良時代以前の古代の道は、細くて曲がりくねっているものと思われてきました。ところが、1970年代に入って、古代の道の遺構に直線的で道幅も広いものがあることが知られるようになってきました。その後の発掘や研究によって、幅9～16mの側溝を備えた大規模な直線の計画道路が、全国に張り巡らされていたことが明らかになってきました。しかし道路建設の直接的な記録はなく、いまだに、この古代の直線官道が、「いつ」「誰によって」「何のために」つくられたかは、はっきりしていません。

およそ天智、天武朝の頃に律令国家の全国統治のために建設されたと考えられ、軍隊の移動、都から地方への命令、地方から都への報告、国内外へ国家の威信を示す、税物の都への輸送などの国家的な目的があったものと考えられています。



東山道武蔵路（所沢市東の上遺跡）所沢市 HP

官道関係年表

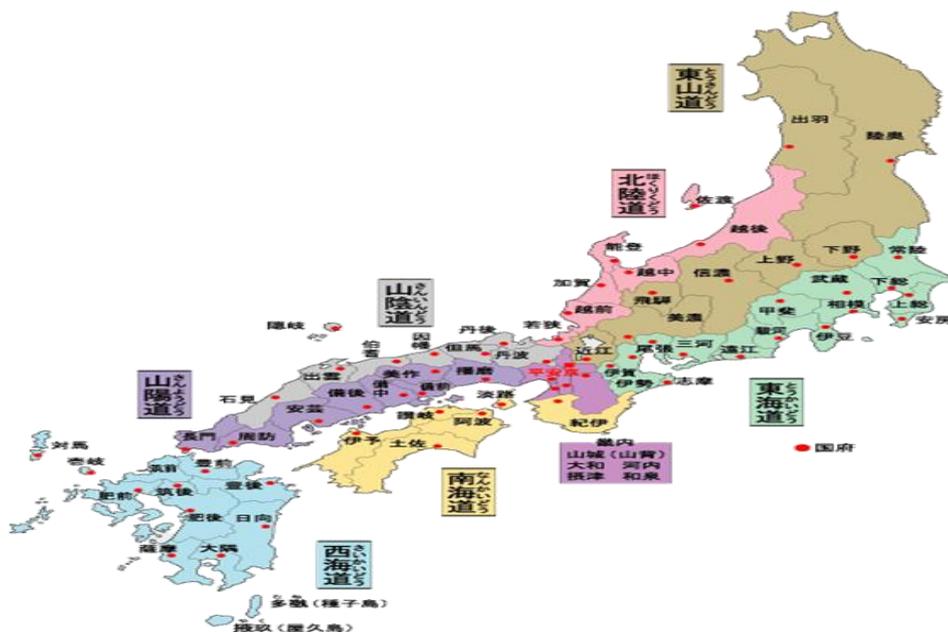
- 645 大化の改新
- 646 大化の改新の詔 官製の交通路の設置の指示 初めて京師を修め、畿内 国司 郡司 関塞 斥候 防人 駅馬 伝馬 を置き及び鈴契を造り山河を定めよ
- 663 白村江の敗戦
- 665 長門 大野 基伊城築城
- 667 高安 屋島城の築城 大津京
- 672 壬申の乱 日本書紀 大海皇子鈴を得ようとしたが近江朝の役人に拒絶、東海道の隠張駅家伊賀駅家を焼く
- 683~天武朝 国境画定 令制国の成立 国評五十戸制
- 701 大宝令 国郡里制
- 741 聖武天皇国分寺建立の詔
- 757 養老令 厩牧令 諸道置駅条 凡そ諸道に置くべくば卅里（さんじゅうり）毎に一駅を置け・・・
凡そ諸道に駅馬を置く 大路20疋 中路10疋 小路5疋
駅長条 駅には駅長1名を置く
- 771 武蔵国を東山道から東海道に所属替え 海上ルート、東山道武蔵路廃止
- 927 延喜式 兵部省諸国駅伝馬条 各国の駅名と駅馬数及び伝馬の配置郡名と伝馬数記載 全国402駅

3. 五畿七道と駅制

五畿七道 律令国家の地方行政区分 都周辺の五畿と地方の七道で全国を統治

五畿： 山城 大和 河内 和泉 摂津

七道： 山陽道 東海道 東山道 北陸道 山陰道 南海道 西海道

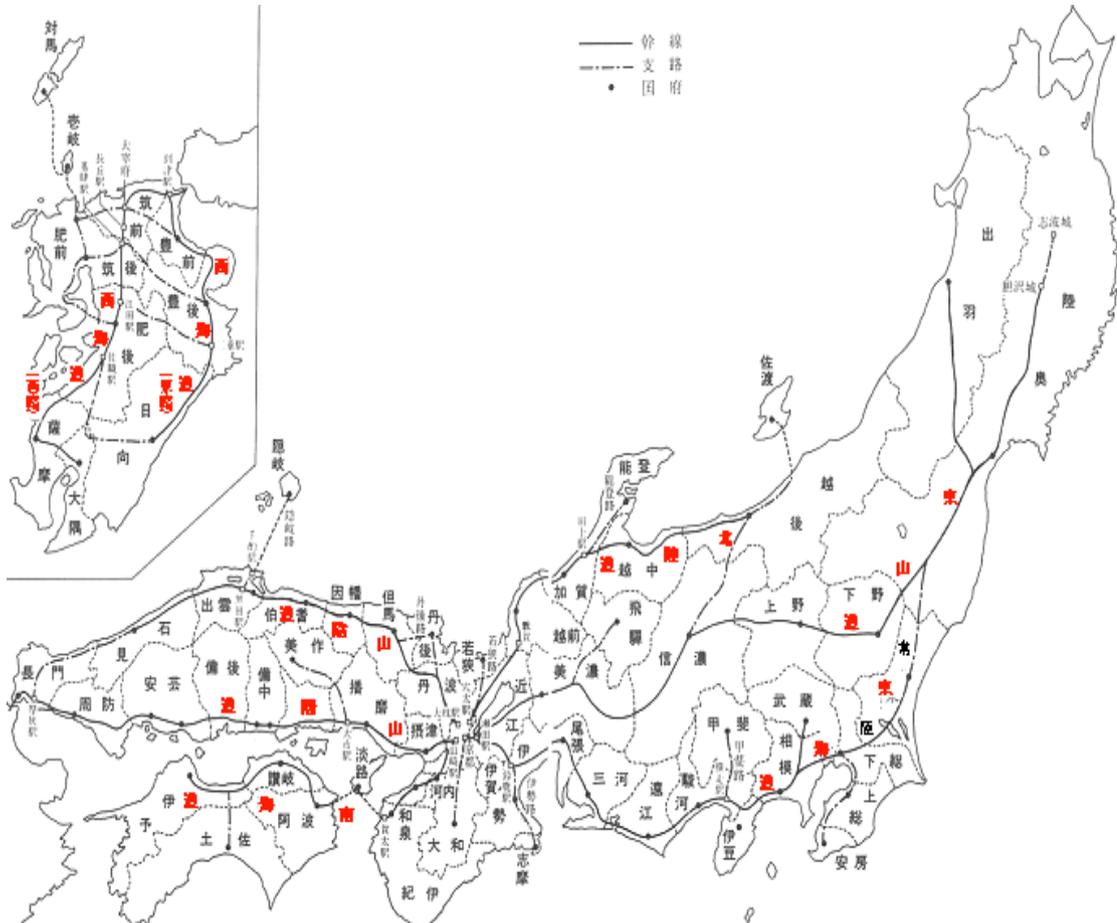


国土交通省 HP

七道駅路

行政区分としての七道それぞれに同名の直線官道を建設

10Cの延喜式兵部省諸国駅伝馬条に七道の駅名と配置した駅馬の数が記載されている。



国交省 HP 七道駅路概要図（児玉幸多編「日本交通史」吉川弘文館より）

総延長 およそ 6300km ≒ 現代の高速道路網

大路：山陽道、西海道の一部（都から太宰府まで） 中路：東海道、東山道

小路：山陰道、北陸道、南海道、西海道の大路を除く部分

駅 30里（16km）ごとに設置

駅長、駅子、駅馬を配置 役人、使節の宿泊・饗応、駅馬の乗りかえ

総数 全国約 400箇所

駅馬 大路 20疋 中路 10疋 小路 5疋

駅鈴を持った役人が駅家で駅馬を乗り継いで情報を伝達

急ぎの場合 1日に 10駅 160kmを疾走

駅路のシステム全体 兵部省の管轄 養老職員令 延喜式兵部省諸国駅伝馬条に記載

道路の保守管理 民部省の管轄 実際は国司、郡司

4. 山陰道

行政区分としての山陰道

丹波 丹後 但馬 因幡 伯耆 出雲 石見 隠岐 の八か国

道路としての山陰道

区間 都から石見国府（現在の島根県浜田市）まで

総延長 本道 420 km 丹後・但馬路の支道を入れて 570 km 隠岐に渡海

道路区分 小路

道幅 7C 建設当初 9m 側溝や街路樹があるところあり

鳥取島根の古代山陰道と道路遺跡

鳥取県埋蔵文化センター古代山陰道令和2年度現地説明会資料

県名竹内加筆



古代山陰道推定ルートと発見された道路遺構

島根県の古代山陰道遺跡

出雲市杉沢遺跡 島根県出雲市斐川町

平成24年(2012)より出雲市は出雲斐川中央工業団地造成に伴う埋蔵文化財調査によって丘陵地の尾根上で古代山陰道と想定される幅9mの道路遺構を発見した。

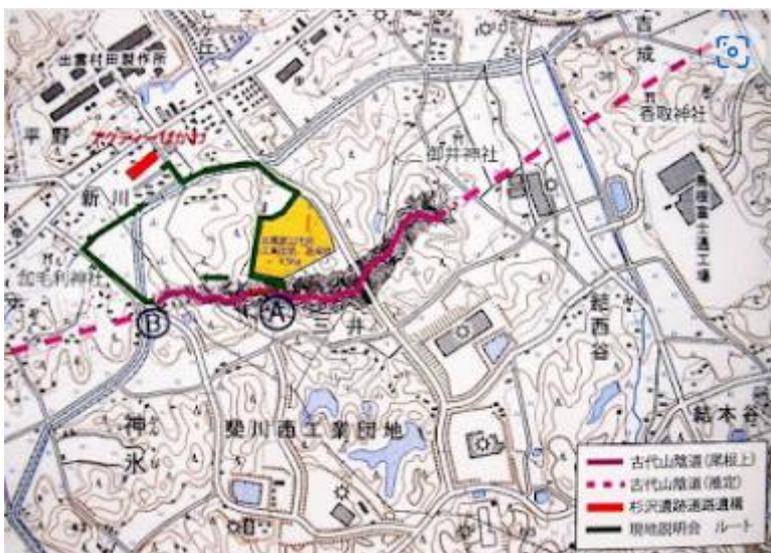
杉沢遺跡

現況(2023年7月竹内撮影)



発掘時

出雲市文化財課



出雲市文化財課

標高25mの丘陵の尾根上を約1km縦走 丘陵を直線的に貫く 杉沢遺跡、三井II遺跡、長原遺跡が連なる

多様な土木工法を駆使 切土・盛土工法 切通工法 版築盛土工法

尾根上でも両側に側溝あり 側溝の心々距離9m 側溝は道路境界を示す 雨水の排水波板状凹凸面あり(路盤改良か)

江戸時代筑紫街道と呼ばれていた里道 村境になっている

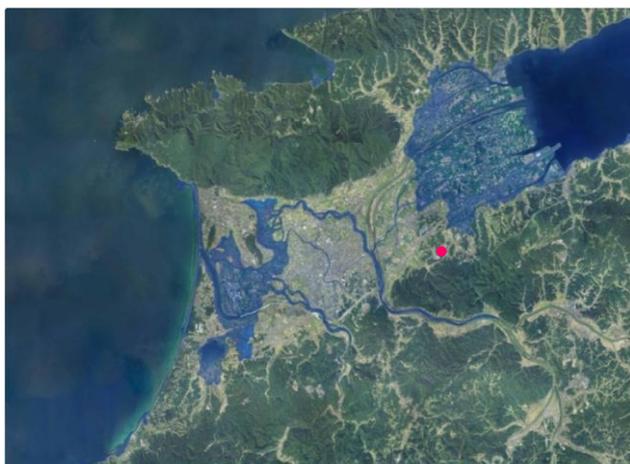
道路の建設時期 7C後半の須恵器出土 7C後半～8C前半

廃絶時期 側溝埋設土の放射性炭素測定 11C中期 11C中ごろ～13C初頭

出雲風土記の正西道（まみにしのみち）＝古代山陰道の一部と推定される

延喜式兵部省諸国駅伝馬条（10C） 山陰道が記載 出雲国内の駅 野城 黒田 宍道 狭結 多伎 千酌 の6駅がおかれ駅馬各5疋（小路）（風土記では多伎→多伎）

出雲国風土記（8C） 正西道（まにしのみち） 延喜式と同名の駅家の記載あり



資料提供：出雲市文化財課

古代の宍道湖、出雲平野 出雲市文化財課

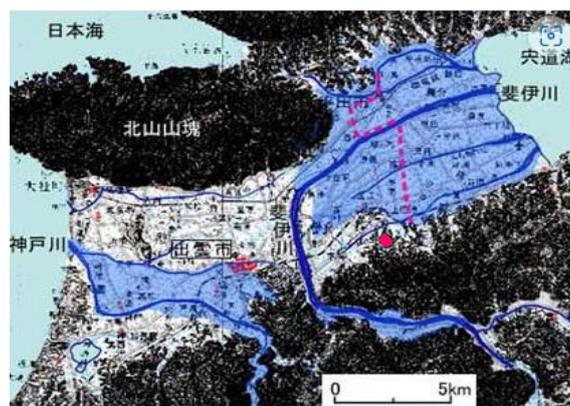


図6 1972年7月洪水に氾濫区域(国土交通省資料) 赤点線は明治20年洪水の氾濫域限界

● 杉沢遺跡竹内加筆

なぜ丘陵の下の平坦部でなく、登り下りの大変な負担がある丘陵部に道路を敷いたのか？



建設当時の宍道湖は現在より大きく西に拡大しており遺跡のある丘陵地の下の平坦地は地盤が悪い低湿地で、洪水により水没の懸念もある場所。国家が建設する古代の大規模な官道の敷設には適さない。

道路建設にかかわった技術者：地理、地形、土壌、過去の災害などの高度な知識を持つ

道路工法

鳥取県埋蔵文化センター
(青谷古代山陰道2021)

工法A 丘陵尾根の片側を切り、切土を利用して谷の斜面側に盛土を行い造成する工法	工法C 丘陵尾根に切通しを行う工法
工法B 丘陵尾根を水平にカットし造成する工法	工法D 丘陵尾根の鞍部を盛土で埋め立てる工法

5. 出雲国風土記

成立 天平5年(733年) 編纂者 出雲国造 出雲臣広島

風土記 和銅6年(713年)全国に作成命令 地名の由来 特産物 伝承などを
朝廷に報告 現在 出雲 常陸 播磨 豊後 肥前 の五か国の風土記が
伝わる ほぼ完全に残るのは出雲のみ

内容 総記 各郡:意宇(おう)・島根・秋鹿(あいか)・楯縫(たてぬい)・出雲
神門(かんど)・飯石(いいし)・仁多・大原の九郡で構成
各郡や郷の名前 由来 所在 特産物 郡家の国府からの方位、距離
郡内の神社、寺院、山、川の名前、郡家からの方位、距離、出雲国内の道路網に
ついて極めて詳細に記載

巻末記:駅路名、駅家名、駅間距離、郡家を結ぶ道、国府からの各郡家への方位、
距離、道路の分岐点、橋、橋の幅、渡河点、渡し場、国境、軍団、烽(とぶひ)
戍(まもり)記載

特色 巻末記に東の伯耆国境から出雲国府を経て西の石見国境に至る正西道
(まにしのみち)が記載

他の風土記にはない軍事情報(道路網 距離 橋 軍団、烽、戍、など)や
行政施設を記載

背景 天平年間には新羅と緊張状態 天平4年(732)に石見国に節度使の鎮所
設置するなど対新羅軍事防衛体制が敷かれる

天平5年(733年)出雲風土記を編纂した出雲国造の出雲臣広島が石見の節度使に
呼び出された。発掘された古代山陰道を通して石見に行ったものと考えられる。

出雲国風土記記載の道路網

枉北道(きょうほくどう、きたにまがれるみち) 十字街~島根郡家
正南道(せいなんどう、まみなみのみち) 玉作街~大原郡家
南西道 大原郡家~南西国境
東南道 大原郡家~仁多郡家
正東道(まひがしのみち) 仁多郡家~伯耆国境
正南道(まみなみのみち) 仁多郡家~備後国境
正西道(せいせいどう、まにしのみち) 伯耆国境~十字街~石見国境
=古代山陰道と思われる幹線道路

出雲は出雲国風土記が残ったことで奈良時代の道路網や軍事施設が把握できる稀有な地域

▶ 古代山陰道のルート



マップトラベルガイド島根県に●竹内加筆

出雲国風土記の一例

I 総記 国の大体は震を首とし坤を尾とす…東西一百三十七里一十九歩
南北一百八十二里一百九十三歩なり…駅家六…

[現代語訳]

国のおおよその形は東を始点とし西南を終点とする…東西 73.3 km
南北 97.6 km…駅家 6…

III 卷末記 主要道 正西の道 十字の街より西へ一十二里、野代の橋に至る…
又、西へ七里、玉作の街に至り、即ち分れて二つの道と為る 一つは
正西の道、一つは正南の道

[現代語訳]

主要道 真西の道 十字路から西へ 6.4 km で野代橋に至る…また、西へ
3.7 km で玉作の分岐点に至り、ここで分れて二つの道となる 一つは
真西の道一つは真南の道

荻原千鶴 「出雲国風土記」講談社

1 歩 = 1.8m 1 里 = 300 歩 = 540m

距離の測定、方位の把握が精密。地理空間認識に関する科学的技術レベルが極めて高い

6. おわりに

出雲市杉沢遺跡は、尾根上の古代山陰道の跡を今でも歩くことができる貴重な遺跡です。1300年前に風土記をまとめた出雲臣広島も歩いたであろう道を現代の私たちが歩けるのはとても素晴らしいことです。

また出雲は、出雲大社のみならず、出雲国風土記記載の神社や古代中世を経て現代まで続く鰐淵寺などの寺院など多くの貴重な文化財の宝庫でもあります。宍道湖七珍などのおいしい食材もありますので、ぜひ観光がてら訪れてほしいと思います。

『参考文献』

- 「出雲国古代山陰道発掘調査報告書」 出雲市教育委員会 2017
「出雲国風土記ハンドブック」発行：島根県教育委員会 編集：島根県古代文化センター
「古代山陰道公開資料」鳥取県埋蔵文化センター
「日本の古代道路を探す」 中村太一 2000 平凡社
「出雲国風土記 全注釈」荻原千鶴 2014 講談社
「古代の道路事情」 木本雅康 2000 吉川弘文館
「道 I」 武部健一 2003 法政大学出版社
「日本古代の道と駅」 木下良 2009 吉川弘文館
「古代官道の歴史地理」 木本雅康 2011 同成社
「マップルトラベルガイド島根県」マップル

